四環系抗うつ薬ミアンセリンの夜間睡眠および夜間 陰茎勃起に及ぼす影響

メタデータ 言語: jpn
出版者:
公開日: 2017-10-06
キーワード (Ja):
キーワード (En):
作成者: Maeda, Yoshiki
メールアドレス:
所属:
URL http://hdl.handle.net/2297/14763

学位授与番号 医博甲第917号

学位授与年月日 平成元年9月30日

氏 名前田義樹

学位 論 文 題 目 四環系抗うつ薬 ミアンセリンの夜間睡眠および夜間陰茎勃起に及ぼす影響

論文審査委員 主 査 山口成良

副 査 高 守 正 治

橋 本 和 夫

内容の要旨および審査の結果の要旨

四環系抗うつ薬ミアンセリンの中枢薬理作用として、シナプス前 α_2 アドレナリン受容体阻害によるノルエピネフリン放出促進作用がいわれているが、夜間睡眠および陰茎勃起に及ぼす影響については不明のところが多いので、本研究に着手した。

健康青年男子 6名(平均20.5歳)を対象に、継時的睡眠ポリグラフィ(PSG)記録を施行し、ミアンセリン20mg/dayの7日間経口投与とその離脱による夜間睡眠ならびに夜間陰茎勃起(NPT)に及ぼす影響を調べた。実験日程は、偽薬を2日間経口投与した後(順応期間と基準期間)、ミアンセリン10mgを1日2回7日間投与し(服薬期間)、その後3日間偽薬を投与した(離脱期間)。陰茎膨張モニターを含むPSG記録を各々の期間に施行し、得られた結果を以前に同実験日程で施行した三環系抗らつ薬クロミプラミン投与の場合と比較検討した。延べ96夜、總記録時間816時間のPSG記録をもとに、以下の結果を得た。

- 1. ミアンセリン服薬期間中、REM睡眠は軽度抑制され、REM睡眠時間は服薬第1・3・7 夜において有意に減少したが、基準夜と比較してそれぞれ85,7%、74,5%、80.2%に減少したに とどまった。REM潜時、REM期の出現回数、REM期の平均持続時間に関しては有意な変化 を認めなかった。ミアンセリンのREM睡眠抑制作用は全服薬夜でクロミプラミンに比し有意に 弱かった。また、離脱夜においてもクロミプラミンでみられたようなREM睡眠の反跳増加現象を認めなかった。
- 2. NREM睡眠についてはミアンセリン服薬第1夜で睡眠段階2の有意な増加を認め、離脱第3夜で入院潜時の有意な延長と全睡眠時間の有意な減少を認めた。クロミプラミンでは中途覚醒と睡眠段階1の増加を認め、睡眠の持続の障害をもたらしたのに対し、ミアンセリンはより深い睡眠を増加させる効果を有することが示唆された。服薬期間、離脱期間を通してクロミプラミンでみられたような非定型的睡眠段階の出現は認められなかった。
- 3. NPTもミアンセリン服薬により抑制されたが、全服薬夜においてクロミプラミンの抑制作用よりも有意に弱かった。自己評価による性機能評価でも、ミアンセリンの性機能抑制はクロミプラミンよりも弱かった。

従来、三環系抗うつ薬において、REM潜時の延長作用と抗うつ効果との相関がいわれていたが、本研究でミアンセリンのREM睡眠抑制作用が弱く、REM睡眠反跳現象も示さなかったことより、上記の相関は一部の抗うつ薬に限られるものと思われた。

以上、本研究は四環系抗らつ薬と三環系抗らつ薬の夜間睡眠および陰茎勃起に及ぼす影響に差 のあることを明らかにしたもので、精神薬理学ならびに精神医学に寄与する論文と評価された。